

会議結果報告書

1 会議の名称

平成25年度光市文化財審議会

2 開催日時

平成26年3月20日（木） 13時30分～15時00分

3 開催場所

光市教育委員会1階ホール

4 光市文化財審議会委員 9名中8名

事務局4名

5 公開・一部非公開の別

公開

6 会議の議事録（要旨）

（1）教育長あいさつ

（2）会長あいさつ

（3）平成25年度実施事業報告

ア 事務局より、パワーポイントを用いて、以下の実施事業について概要を報告。

（ア）文化財保護事業

（イ）文化財活用事業

（ウ）伊藤公資料館事業

イ 概要報告の質疑

（副会長）

活動報告が年々充実しており、色々工夫を凝らして活動しているのがよく分かる。健康増進課によるふるさとウォークで文化財めぐりをするのもいい試みと思われるし、各課の垣根を越えて市民に理解してもらうことは良いことだと思う。景観と文化財、文化財と景観が一体となった取り組みがこれからも連携しながら継続されるように頑張ってもらいたい。

『伊藤公学習帳』は、自分もほしいくらいの内容である。なお、伊藤公資料館の今後の課題として、リピーターを呼び込むことが今後の課題になるのでは

ないか。客が客を呼び込むシステムを作れないか。

(事務局)

学習帳は今年500部ほど印刷製本している。児童を主対象として作成したが、資料館に入館された大人からも求める声が多く、すぐにストックがなくなった。来年度、3,000部の増刷を検討している。

リピーターを呼び込む工夫については、現在検討している。何か事例等をご存じであれば、ご教示いただきたい。

(副会長)

学習帳を商品化してもよいのではないかと思う。

事例については、神奈川県では現代絵画を扱う美術館がリピーターを増やしていると聞いている。「この次来たらこの割引券を使って下さい。」と来館した児童へ渡し、次の時は家の人と一緒に来ることもあるらしい。また情報があったら紹介したい。

(委員)

牛島や伊藤公のことを知りたい場合、観光協会に連絡しているようである。しかし、既存のパンフレットは個々の対象については詳しく記載されているものの、どのような文化財があり、どのような動物や植物が見られるといった総合的なパンフレットはないように感じられる。これは、山口県にも当てはまる。情報を求める人は、歴史だけでなく色々なことを求めるので、総合的なものがあると観光客も増える。費用はかかると思うが、何度でも使えるパンフレットがほしい。知らせたい内容をたくさん盛り込むと、現地を訪れる方々も楽しめる。市や島にも利益に繋がるようなパンフレットを将来的に考えてほしい。

建物はいずれ腐食する。木造建造物にいくら防腐剤を塗っても十分な効果は得られない。将来のことを考えて、修繕できるように費用について考えていくべきである。

(事務局)

観光協会等との連携は行っており、他のセクションも同様である。今後も状況を把握しながら連携を深めていく予定である。

(会長)

里の厨のレシート割引があるが、他の歴史関係施設等とのスタンプラリーを開催し、いくつか押すと記念品がもらえるというようなことを考えたらどうか。昔は伊藤博文の千円札もなじみがあったが、現在の千円札は伊藤公でなくなったので、関心が薄れた感がある。昔はエコパークの所に伊藤公生誕地の大きな看板があったが、光市のメインとなる観光について検討する必要がある。

(委 員)

JALを使うとホテル代が安くなる例もある。

(事務局)

里厨割のレシートも伊藤公の方へ足を運んでもらいたい思いで実施している。

(副会長)

里厨割の利用者数は把握しているか。

(事務局)

月ごとに集計している。里厨割は、本年度4月から開始しているが、現時点では、約130人程度である。

(委 員)

高知県の牧野植物公園ではナンジャモンジャノキ、秋吉台や広島^の植物園では御衣黄^{ぎよいこう}があり、1つのセールスポイントでも人は集まる状況が認められる。

(副会長)

何らかの演出も検討課題である。

(事務局)

伊藤公資料館については、入館者の増加ならびに来館者への満足度の向上に向けて今後とも研究したい。

(4) 議題

ア 歴史文化編纂事業について

議題資料に基づき、本事業について事務局及び担当委員より説明。

(委 員)

説明を伺っていて、冊子の骨格や概要は分かった。新たな資料を盛り込むための古文書の解読調査は大変良いことである。冊子が出来上がるのを楽しみにしている。冊子の原稿作成のために各地区の歴史文化遺産の調査カードを作成しているようであり、これらの保存活用も考えてほしい。また、冊子の中にコラムやトピックも取り入れると読む人も楽しいと考える。

(委 員)

先日、群馬県の若い方が光市に来られ、幕末維新期の第二奇兵隊の隊士が群馬県に駐屯した時、非常に規律が正しかったこと、隊士が河川工事をしてくれたことなどを学校で習ったと話しておられ、どうしても関連史跡を訪ねたかったという話を聞いた。光市での出来事ではないが、冊子の参考になればと思う。

(委 員)

議題資料15ページの冊子原稿案の記述を見て、説明文が難しいと感じている。ルビなど付けて分かりやすくする工夫を検討してほしい。また、主対象を

どこまで下げるかという課題については、中学生が分かる程度の内容で検討してほしい。

イ 歴史文化遺産活用準備事業について

議題資料に基づき、事務局より説明。

(副会長)

仮題であるが、冊子のタイトルが「未来を拓く」とはいいことだと思う。冊子作成のための各地区の調査カード、そしてこれらを管理するための「文化財カルテ」も増加させることを念頭に、有効活用していくことが大切である。取り上げられていない対象にも価値は認められると思われるし、市民の方の理解を広めていくことも必要である。この事業をきっかけにして歴史サポーターづくりも考えてほしい。

(委員)

石城神社1つだけではインパクトがない。石城神社のためだけに行こうとする人は少ないのではないか。「石城山に行こう！」という広い活用の方が良い。鳥居があり、神籠石の石はどこから持ってきたのか、火山岩が石城山にあるのも興味深い。自然や宗教施設などのカテゴリーも一体化してとらえるべきである。

(事務局)

文化財カルテは対象の1件ずつを現地で調査し、その成果を1枚のカードにまとめるものである。そのカードの中に公開に向けたビジョンを1つの項目に設定し、季節や文化財の種別、時代やテーマなど、周辺地域との繋がりを意識した広い活用ビジョンを考えながら作成している。そのため、現状のカルテは1件ずつのものが出来上がるが、現地活用の際には、点から線に、さらには面に広げた活用を検討していきたいと考えている。

(会長)

現地学習を促進していくためにも、先の議題で委員が指摘した冊子の対象は、中学生が分かる程度のもので検討してほしい。

(委員)

他市でも文化財審議会の委員をしているが、これまでの事業報告や議題の説明を聞いていると、冊子の編纂事業や文化財の保存活用などに光市が積極的に取り組まれていることは、大変良いことだと考える。

郷土の偉人については、松岡洋右は満鉄の総裁を務め、国際連盟脱退時の全権主席として演説した人物であるが、光市の室積出身であることを知らない人も多いのではないか。もっと検証していく必要がないだろうか。また、伊藤博

文については、当時の博文がいたから、今の日本がある。山口県・世界史の中でも賞賛された人である。萩は松陰読本をつくって松陰の勉強をさせている。光市も伊藤の生き様にもっと触れさせてほしい。

(副会長)

学ぶべき郷土の人物はまだ多くいると思う。今後、発展的に人を扱うことは考えているのだろうか。また、現状で、冊子の増補を考えているのか。

(事務局)

現在は、新市誕生10周年の節目の年に市民向けの冊子を作成することに全力を注いでいる。発刊予定の冊子の増刷等は、発刊後の状況を踏まえて対応を検討していくが、新しく別の本や改訂版を出すことについては、現状では考えていない。

(副会長)

生涯学習の視点からも活用できる冊子を目指してほしい。

(会 長)

色々と事業が多様で大変と思われるが、今後も頑張っていたきたい。

7 問合せ先

光市教育委員会 文化・生涯学習課 (0833-74-3607)